

健康づくり研究のメッカ

## 国立健康・栄養研究所への期待

元国立公衆衛生院院長 高石 昌弘



健康増進法の施行により、「健康づくり」の施策には急速な進展が期待されている。この法律の背景に「健康日本21」の策定があったことは良く知られているが、これが第3次国民健康づくり対策として21世紀における国民健康づくり運動の方向を明示したものであることは言うまでもない。地方分権が進行する中で、健康づくり施策の地方版が続々と作られている昨今である。

国レベルであれ地方レベルであれ、新しい施策には科学的な研究の裏付けが必要である。確かなエビデンスの積み上げに基づき確かな分析が進められることによってはじめて望ましい施策の方向性は明らかになっていく。この意味で、研究という地味な努力を優れた企画力とたゆまぬ実行力により組織的に進めていくのが研究所という施設の責務であろう。このように考えると、健康づくり施策を進めていくための科学的裏付けを確かなものとしていく研究所として国立健康・栄養研究所への期待は極めて大きい。まさに健康づくり研究のメッカなのである。

独立行政法人国立健康・栄養研究

所の要覧には、①国民の健康の保持及び増進に関する調査及び研究、②国民の栄養その他国民の食生活に関する調査及び研究等を行うことにより公衆衛生の向上及び増進を図るという目的が明示されている。この2大テーマが健康増進・人間栄養学研究系、国民栄養調査・健康栄養情報研究系、食品保健機能研究系の各研究系における研究によって着実に進行していると聞いており、それぞれの研究成果に多大の期待が寄せられている。とりわけ筆者は日本初のヒューマンカロリメータの導入に基づくエネルギー代謝プロジェクトの成果に大きな関心を持っている。その成果は次の第7次改定栄養所要量の策定に反映して、科学的根拠に基づく健康づくりの基盤となるはずだからである。他の全ての研究成果にも同様の期待が持たれていることは当然である。

健康づくり研究のメッカとしての国立健康・栄養健康研究所のますますの発展を期待して止まない。